

## 九州大学伊都キャンパスから、 水素エネルギー技術で世界を変えたい。

副学長  
水素エネルギー国際研究センター長  
次世代燃料電池産学連携研究センター長  
佐々木 一成



水素エネルギー技術は、低炭素社会実現へのキーテクノロジーとして期待されています。2009年から家庭用燃料電池の市販が始まり、また、2014年12月からは燃料電池自動車の一般販売も開始され、それを支えるインフラ整備が進められていますが、実用技術としては発展途上でもあります。本格的な普及のためには、技術課題の解決や新しい技術の開発が必要ですが、ブレークスルーにつながる研究成果がエネルギー社会を大きく変える可能性も秘めるチャレンジングな技術分野です。世界の将来を担う学生諸君や若手研究者の活躍が期待されている分野でもあります。

九州大学伊都キャンパスにおいては、文部科学省や経済産業省、(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構のご支援のもと、産業技術総合研究所など関連する研究機関や福岡水素エネルギー戦略会議などの地域とも密に連携し、水素エネルギー分野の高度人材育成や、基礎基盤研究から産学連携研究、社会実装研究までが一体的に実施されています。

平成22年度からは、「産学官地域連携による水素社会実証研究」事業がスタートし、基礎基盤・産学連携研究と連動した実証研究を実施し、産学官と地域が一体となった世界オンリーワンの水素エネルギー研究教育拠点を構築することを目指しています。

また、平成22年12月に開所した「カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所」(文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム)や平成24年1月に開所した「次世代燃料電池産学連携研究センター」、平成25年11月に開所した「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)」拠点、センター・オブ・イノベーション(COI)プログラムのビジョン3「活気ある持続可能な(Active Sustainability)社会の構築」、国際戦略総合特区事業の活動も進めながら、水素エネルギー技術を生かした低炭素社会・脱炭素社会の実現に貢献することを目指しています。平成28年からは、オール九大の組織である「エネルギー研究教育機構」の活動にも全面的に協力しています。

### 福岡水素FC拠点:基礎研究から産学連携、本格普及へ



### ◎水素技術を生かした低炭素社会のイメージ

